

「秩父市立中学校の休日部活動の在り方について」調査報告書

令和6年8月26日
秩父市教育委員会

1 調査目的

本アンケートは、秩父市立中学校部活動地域移行推進協議会において、休日部活動の地域移行について、持続可能かつ多様な環境を一体的に整備するための方策について、検討を進めるために実施するものである。

2 調査方法

期間：令和6年6月5日～30日

対象：秩父市立中学校生徒・教職員・保護者、同小学校5・6年生保護者

方法：インターネットによるアンケート調査

3 調査結果概要

(1) 生徒（回答者数 1,115／1,361<81.9%>）

休日に「学校部活動で活動したい」と答えた生徒は57%、「地域のクラブで活動したい」と答えた生徒は15%であった。「学校部活動」を選んだ理由として「同じ中学校区の仲間と一緒に活動できるから」「授業後すぐに活動を始めることができるから」が多くを占めた。「地域のクラブ」を選んだ理由では、「専門的な指導を受けられるから」「希望する種目の活動ができるから」が多くを占めた。28%の「どちらでも活動したくない」生徒のうち88.9%は「休日は休みたい」と回答していた。やってみたい活動は「バドミントン」「卓球」「バレーボール」の順に多かった。

(2) 教職員（回答者数 105／137<76.6%>）

94.3%の教職員が部活動に対して教育的意義を感じており、「生徒が授業や行事等では学べないことを学べること」「生徒が友達や先輩・後輩と一緒に活動できること」から、約7割は今後も必要だと回答していた。約8割は部活動にやりがいを感じるとの回答であった。一方80.3%は部活動にストレスを感じるがあると回答しており、「校務や部活動の両立」「自身の家庭との両立」が主な要因となっていた。休日部活動の地域への移行には51.4%が賛成と回答しており、主に「教員にとって部活動の負担は大きいから」との回答であった。

(3) 中学生保護者（回答者数 830／1,361<61.0%>）

地域のクラブに所属している生徒の保護者の6割以上が、メリットとして「質の高い指導を受けられること」「他校の生徒と人間関係をつくること」「学校部活動にはない活動に取り組めるこ

と」と答えていた。課題は「地域のクラブの活動場所までの送迎」との回答が多く見られた。月ごとの負担額は5,000円以内が57.8%で、10,001円以上も24.8%であった。

地域のクラブに所属していない生徒の保護者のうち83.5%は地域のクラブに所属することに賛成と回答していた。その理由は「取り組みたい種目の活動ができるため」「専門的な指導を受けることができるため」が多く見られた。学校部活動を地域のクラブが担うことについては87.3%が賛成と回答していた。「専門的な指導を受けること」をメリットとして捉えているが、活動場所までの移動や保護者の送迎を課題だと感じる回答が多く見られた。適当と考える費用負担については、5,000円以内が89.5%で、10.5%は0円との回答であった。

(4) 小学校5・6年生保護者（回答者数715/906<79.0%>）

地域のクラブに所属している児童の保護者は40.1%おり、メリットとして「他校の児童と人間関係をつくることができる」「学校の授業やクラブ活動等にはない活動に取り組める」を挙げる回答が多く見られた。課題は「地域のクラブの活動場所までの送迎」「クラブの活動運営への協力」との回答が多く見られた。月ごとの負担額は1~5,000円以内が71.4%で、「無料」の回答も複数見られた。

児童が中学進学後、休日の学校部活動の代わりに、地域のクラブで活動することについては、78.3%が賛成と回答していた。その理由は「子供に合ったクラブを選択することができる」「取り組みたい種目の活動ができる」「専門的な指導を受けることができる」が多く見られた。活動場所までの移動や保護者の送迎を心配だと感じる回答が多く見られた。適当と考える費用負担については、5,000円以内が89.2%であった。

4 考察

- ・生徒にとっては、部活動は同じ学校の仲間と活動できることと、移動等の心配なくすぐにできることが重要であると捉えていることがわかる。休日については、自分のやりたい活動に取り組みたいと考える傾向が強い。
- ・教職員にとって、部活動は教育的意義が高く、やりがいも大きいものであるが、公私ともに負担の大きいものであり、部活動の在り方に見直しを求める傾向が強く見られる。
- ・保護者は、子どもに合った活動が実現できるという観点で、地域クラブへの移行を概ね好意的に感じている。しかし、送迎や活動費用等、保護者の負担増を懸念している。引き続き、移行に向けて丁寧な説明が求められる。